



新たなまちづくりに向けて スクラップアンドビルド

町のスクラップアンドビルド について

町では、「公の施設の管理運営方針」に基づき、施設の整理を進めています。
（公の施設の管理運営方針については、8月広報掲載記事または越前町ホームページ参照）

行政の「スクラップアンドビルド」は、新しく事業、施設をつくる時には、古い事業、施設を壊さなければならぬという仕組みで、行政機構の抑制方法の一つとされています。組織の新設にあっても、同等の組織の廃止が条件とされます。

しかし、町が現在進めている施設の整理については、新旧の施設は必ずしも1対1ではありません。例えば、コミュニティセンターの建設や中学校の統廃合では、機能を1つの施設にまとめて、複数の施設を減らす事業を推進しています。

また、旧糸生中学校の改修のように、既存施設の有効活用を図り、他の老朽化した施設の機能を移転したり、新たな機能を付加する施設もあります。

町の進めるスクラップアンドビルドは、人口2万5千人の町として必要な機能を備えた上で、将来的にも財政負担が大きく費用対効果が低いものをなくしていくことで、施設の維持管理費、人件費、借地料などの経費を節減し、必要な行政サービスの維持と向上、町財政の健全化を図るという目的があります。

まちづくりのための施設整備

施設が取り壊されることには抵抗感もあります。しかし、まだ使えそうに見える施設もあります。しかし、老朽化の著しい施設や耐震基準を満たしていない施設、機能の類似した施設を必要以上に抱え続けることは、地域住民の負担を増大させます。建物の性質上、鉄筋コンクリート造の建物の耐用年数は一般に50年とされていることと、昭和56年に施行された新耐震基準（※1）などを踏まえると、築年数が30年以上の建物は改修を実施しても、10～15年後には、再整備や取壊しが必要となります。また、老朽化した空き施設が散在することは、景観面や治安維持の観点からも好ましくありません。

現在の施設整備には、改修や取り壊しも含め合併特例債（※2）を利用することができますが、この機を逃しては、近い将来の大規模改修や取り壊し、建て替えの財源確保に不安を残します。

町では、これらの施設の将来にわたって想定される経費も勘案し、スクラップアンドビルドを行うことで、町の規模に合った、長く利用できる施設を確保し、住民サービスの維持向上やまちづくりの推進を目指した施策に取り組んでいきます。



■ 現在の施設の問題点と主な課題

問題点① 耐震性が不足

● 防災拠点や災害復旧・復興拠点としての十分な機能が果たせません

災害時には、公の施設が災害復旧・復興の拠点となります。しかし、耐震性の問題がある建物は、その役割が果たせない恐れがあります。



問題点② 施設の老朽化が進行

● 改修工事を重ねています

公の施設は、これまでも計画的な改修工事を行っていますが、取壊し予定している施設では、全ての面で著しく老朽化が進んでいます。



● 施設を維持管理するための費用が増大しています。

老朽化に伴い、建物や設備の改修、補修の頻度が高まり、今後さらに費用が増すことが予想されます。また、古い機器類は部品の補充ができず、修繕が困難になっています。

● 省エネルギーや地球温暖化対策という点でも、効率がよいとは言えません。

現在の施設の設備では、こまめな省エネ対策に取り組みにくく、環境に対しても効率・機能が不十分です。

■ 施設検討の基本的な方向性

公の施設の機能には、どのようなことが求められるか、様々な視点から検討します

住民サービスの検討

- ワンストップサービスを提供できる複合施設など、誰もが利用しやすい施設に。
- 使いやすい施設・設備や、わかりやすい表示・案内に。

行政効率の向上

- 住民サービスの維持向上のために、総合的で効率的な行政運営を行うための執務環境が整った施設に。

住民自治の拠点

- 住民交流や住民活動の拠点となる施設に。
- 「協働」の場として情報共有の拠点となる施設に。

防災機能の整備・強化

- 地震などの万一の災害に対して、災害復旧と復興拠点としての役割を十分に果たせる施設に。

財政負担の軽減・効率化

- 整備に必要な費用とともに、建物の長期的な維持管理に必要な費用の両方を勘案し、最適な方法を選定。

環境負荷の低減

- 省エネルギーやリサイクルなど、できる限り地球環境に配慮した施設に。

ワンストップサービス：必要な複数の手続きを一つの窓口で完了できるサービス

平成21年度に廃止する施設

施設の名称	築後年数	建物構造・階数	延床面積
老人憩いの家「つるぎ荘」	33年	木造平屋建	366㎡
旧朝日中学校(校舎)	46年	RC造3階建	3,911㎡
朝日体育館	39年	S造平屋建	2,089㎡
朝日勤労者体育館	30年	RC造平屋建	889㎡
元丹生地区農業共済組合	48年	RC造2階建	437㎡
旧宮崎総合事務所	31年	RC造平屋建	1,335㎡
歴史資料館(旧織田中学校)	37年	RC造3階建	893㎡
朝日郷土資料館	30年(移築後)	木造平屋建	376㎡

(築後年数は、平成21年10月現在の建築年月からの年数)

建物構造：RC造＝鉄筋コンクリート造
S造＝鉄骨造
SRC造＝鉄骨鉄筋コンクリート造

平成22年度以降に廃止する施設

施設の名称	築後年数	建物構造・階数	延床面積
宮崎自然休養村管理センター	31年	RC造2階建	1,045㎡
生涯学習センター宮崎分館	37年	RC造2階建	1,010㎡
旧織田総合事務所	35年	SRC造3階	1,826㎡
生涯学習センター織田分館	37年	RC造2階建	1,186㎡
糸生公民館	37年	RC造2階建	343㎡
織田児童館	26年	RC平屋建	205㎡
越知山大谷寺青少年旅行村(炊事舎、公衆便所)	42年	鉄骨、ブロック造平屋建	29㎡
県民いこいの森センター	35年	RC造2階建	285㎡
渡り鳥保護センター	35年	S造平屋建	105㎡
旧萩野小学校笈松分校	68年	木造2階建	300㎡
旧鯖江・丹生消防組合織田分遣所	34年	RC造2階建(車庫・S造平屋建)	265㎡